

「非行と向き合う親たちの会」に参加する親の心理的变化のプロセスと会の機能

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
臨床心理学領域  
山本 葉月

本研究では、「非行と向き合う親たちの会」の一つであるR会に参加する親たちに焦点を当て、親たちへの聞き取りを通して、会に至るまでの心理的状況と、会でどのような体験をしているのかということ、さらに、会に参加することで生じた親たちの心理的变化のプロセスを明らかにすることを目的とした。

データの分析方法として、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを採用した。その結果、時系列で3つの段階に分けられ、7個のカテゴリー、23個の概念が生成された。

まず、第一段階として、会に参加する前に、親たちがわが子の非行に疲労困憊し、自信を失い、子どもに対して否定的な感情を持ち、孤独感にさいなまされているという状況が明らかとなった。次に第二段階として、会で受容、肯定されることで、親たちは再び自信を回復し、子どもと向き合う気力を取り戻すことができていた。また、会で癒されることで、安定感を取り戻し、自己や他者への洞察を深めることができたことが分かった。最後に第三段階としては、自分の子育てや生き方への洞察を深めた結果、価値観の転換が生じていることがわかった。また、それによって子どもへの信頼感や感謝といった肯定的な感情が増大していたことが分かった。

以上の結果から、親の傷つき体験と子どもへの支配の関係や、会の親の育てなおしの機能と、親の世代間連鎖への気づきと克服、また、親の主体性の回復と子どもに対する認知的変化の関係などが考察された。すなわち、傷つき、孤立した親が、親の会という支持基地における、対人関係や疑似的な親子関係を体験する中で、育ち直し、成長するプロセスが考察された。